2026年11月9日

各　　位

会社名　株式会社　理経
代表者名　代表取締役社長　小柳　誠
（コード番号 8226 東証スタンダード市場）
問合せ先　取締役経理部長　長谷川　章詞
（TEL. 03 - 3345 - 2153）

2027年３月期 第２四半期（中間期）の業績予想値と実績値の差異に関するお知らせ

2026年８月７日に公表いたしました2027年３月期 第２四半期（中間期：2026年４月１日～2026年９月30日）の業績予想値と本日公表の実績値との間に、下記のとおり差異が生じましたのでお知らせいたします。

記

１．2027年３月期　第２四半期（中間期）の業績予想値と実績値の差異
（2026年４月１日～2026年９月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（Ａ） （2026年８月７日発表）	9,900	200	200	65	4円30銭
実績値（Ｂ）	10,949	415	383	189	12円50銭
増減額（Ｂ－Ａ）	1,049	215	183	124	
増減率（％）	10.6	107.5	91.5	190.8	
（ご参考） 前期第２四半期実績 （2026年３月期第２四半期）	9,804	419	368	210	13円93銭

２．差異が生じた理由

連結の実績値につきましては、電子部品及び機器セグメントに属する連結子会社の株式会社エアロパートナーズにおいて、下期に納入を予定していた案件の一部が上期に前倒しとなったこと、防衛省向け新規航空機用部材の納品が順調に推移したことにより、売上高と各利益が前回発表の業績予想値（2026年８月７日開示「2027年３月期 第２四半期（中間期）の業績予想値の修正に関するお知らせ」。以下「前回予想」）を上回りました。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

システムソリューションにおいては、売上高、利益ともにほぼ前回予想どおりに推移しました。製造業向けシミュレーション案件や大学向けシステム案件の納入時期が下期にずれ込みましたが、製造会社向け3D CADソフトウェアのサブスクリプションビジネス（年間更新ライセンス・保守製品）の更新案件や計測関連製品の販売が業績に貢献しました。

ネットワークソリューションにおいては、売上高、利益ともにほぼ前回予想どおりに推移しました。低軌道衛星搭載部品および新規案件であるスポーツ施設向け案件や新規保守案件は好調に推移しましたが、映像配信システム案件および低軌道衛星用アンテナは、いずれも製造遅延に伴い、納入時期が下期にずれ込んだほか、4.9GHz帯製品の販売終了に伴う代替製品の市場投入が遅れております。

電子部品及び機器においては、前述の連結子会社である株式会社エアロパートナーズで下期に予定していた納入の一部が第２四半期に前倒しとなったことのほか、防衛省向け新規航空機用部材の納品が順調に推移したことに加え、半導体市場の需要回復を背景とした生産ライン FA 向け半導体製品および低軌道衛星向け関連製品の売上が好調だったことなどにより、売上高、利益ともに前回予想を上回りました。

これにより、連結売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は、2026 年８月７日に発表いたしました業績予想を上回る結果となりました。

2027 年３月期通期の連結業績予想につきましては、当中間期に前倒しとなった納入が本来下期に予定していた案件であることから、下期にはその反動が見込まれる一方、システムソリューションおよびネットワークソリューションにおいて、下期にずれ込んだ案件の計上が見込まれおり、現在、業績への影響を精査しております。

このため、期初（2026 年５月 13 日開示「2026 年３月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」）に公表いたしました予想を変更しておりません。

今後、予想の修正が必要となった場合には、別途開示いたします。

なお、上記の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以　上